

担当課評価・・・○（達成）、―（未達成）						
★・・・各担当課を取りまとめる課						
薄い網掛け・・・後期計画新規事業						
濃い網掛け・・・再掲事業						
目標及び施策の方向性	事業番号	後期計画事業	担当課	実施状況	担当課評価	
基本目標1：子ども自身が愛され、大切にされていると感じられる						
具体的目標1：子ども自身が「育つ力」をつける						
施策の展開（1）：おとなになるための力をつける						
1. 体験を通じ自分で考え選択する力をつけていきます。	1	職場体験学習	学校（★指導課）	職場体験学習については、八千代市内公立小中学校のほとんどで実施されている。小学校では、奉仕活動や生活科、社会科、総合的な学習の時間等における体験活動をおし、勤労観・職業観の育成を図っている。中学校では、職場体験学習を行うのみならず、農業体験、福祉体験、職業観・勤労観に関する講話等、工夫した取組を行っている学校もある。	○	
	2	若者の就労支援	商工課	ホームページなどに掲載する他、パンフレットなどを商工課の窓口等に置くことや、関係部署への配布により周知に努めた。また、ジョブカフェ千葉出張版事業を2回開催し、就職スキルの向上に努めた。	○	
	3	子ども・高齢者・障害者施設などでのボランティア体験	学校（★指導課）	中学校では多くの学校で、幼稚園や保育園での職場体験学習を行っていたり、福祉作業所や高齢者等の介護施設でのボランティア体験を実施している。小学校では、ケアセンター訪問による高齢者との交流や特別支援学級との共同学習等が展開されている。体験自体が「目的」とならないように留意する必要がある。	―	
	2. 子どもの時から親になるための教育の充実を図ります。	4	十代保育ボランティア養成講座	NPO	未実施のため	―
		5	次の親になるための事業の検討	★子育て支援課（地域子育て支援センター） 母子保健課	市内7圏域のすべての地域子育て支援センター・すてっぷ21で実施。ポスター・ちらし・申込用紙等作成し、地域の中学校・小学校に周知・配布をすることができた。	○
		6	子どもとのふれあい体験学習	学校（★指導課）	キャリア教育やボランティア精神の育成をめざした活動の一環として、多くの小中学校で取り組んでいる。しかし、体験学習実践の前段階として、ふれあい体験学習の意義について学び、自らの言動について思考・判断するための時間の確保が大切である。そのために、教育課程に位置付けることが必要である。	―
		7	家庭科教育	学校（★指導課）	小学校家庭科及び中学校技術・家庭科での男女共修は、全市立小中学校で実施されている。小学校高学年で、衣食住に関する実践的・体験的な活動に取り組む。中学校では、家庭の機能について理解を深め、課題を立て学習している。また、中学校では、八千代市中学校技術・家庭科作品展を年に一度開催しており、家庭科に関する興味・関心の向上が図られている。	○
	8	調和ある人格形成を育む	学校（★指導課）	達成基準をどのあたりに設けるのが難儀するところであるが、各学校の教育目標・方針では、互いを尊重し、相手を思いやる心を育てる取組が掲げられ、地域と協力した教育実践がめざされている。一人一人の良さを認め合い、表彰していく取組を行っている小中学校も多い。	○	
3. 子どもの心と身体（からだ）の健康づくりをすすめます。	9	やちよ食育ネット	★母子保健課 農政課 保健体育課 健康づくり課	市内小学校全校で農業生産者を小学校に招き、学級担任・栄養教諭等と連携して食育授業を実施する、食育推進事業「めざせ！食の達人 農業の先生とのふれあい授業」を実施。学校独自で農業生産者と関わりのある食育を実施できている8校を除く12校と、特に希望があった2校を合わせた14校を対象に授業コーディネートを行った。事業実施に向けた調整・実施後評価等のため、やちよ食育ネットワーク協議会会議を1回、実務者による分科会会議を2回、合同会議を1回実施し、会議の中で検討を行いながら資料媒体の改良を行った。また、関係者への事業周知のため、やちよ食育マガジンを配布した。	○	
	10	親学習支援事業（みんなで食育、子育て応援ポケット） （関連事業番号16、101）	★子育て支援課（地域子育て支援センター） 母子保健課	各地域子育て支援センター・すてっぷ21で、栄養士による離乳食や給食の紹介と試食を行ったり、地域の農業生産者や地域のひと協力し、参加親子と野菜の話の聞いたり、調理を体験することができた。各地域子育て支援センター・すてっぷ21の年間予定のポスターを遊びと交流の広場に提示したり、ホームページに掲載し周知を図った。子育て応援ポケットで、情報の提供を行った。	○	
	11	幼児期親子への食育	母子保健課	公民館で計11件（自主サークルを含む）263人、学童保育で8件 219人、その他2件 11人の食育の健康教育を実施した。	○	
	12	八千代市思春期ネットワーク会議	★母子保健課 保健体育課 生涯学習振興課	会議は年間5回開催。取り組みとしては、性暴力被害やLGBT等多様な性の問題をテーマにした思春期保健シンポジウムの開催やシンポジウムの内容を掲載したニュースレターの発行を実施。また新たな試みとして、中学生向けの性に関する相談機関や正しい情報が得られる情報サイトを紹介するためのリーフレットを作成し、市内中学校3年生へ配布した。小中学校教諭を中心とした作業部会は年間2回開催し、子どもたちへの生と性の教育の充実を目的に作成した「八千代市オリジナル生と性の教育教材」の周知方法の検討や効果の分析を行った。	○	

目標及び施策の方向性	事業番号	後期計画事業	担当課	実施状況	担当課評価
	13	八千代市歯科保健推進協議会	★母子保健課 子育て支援課（保育園） 保健体育課		○
	14	薬物乱用防止教育	保健体育課	平成25年度の薬物乱用防止教室の開催は小学校14校、中学校全校で実施であった。平成26年度は小学校21校、中学校全校で実施することができた他、複数の学年で実施したり、複数回実施したりする学校もあった。	○
	15	喫煙防止教育	★健康づくり課 子育て支援課（保育園）	市内の保育園（公立・私立併せて19園）と幼稚園（私立5園）に紙芝居を配布し、園児に紙芝居による喫煙防止教育を行った。保護者へは、紙芝居の副読本に受動喫煙や禁煙補助剤の説明等を入れたパンフレットを配布し、喫煙による健康への影響について啓発を行った。	○
	16	親学習支援事業（子育て応援ポケット） （関連事業番号10、101）	★子育て支援課（地域子育て支援センター） 母子保健課	市内7圏域の全子育て支援センターにおいて、リーフレットをタベストリーのポケットに入れ室内に掲示。常に利用者が必要な時に持ち帰ったり、その場で職員と話をすることで、子育ての知恵やヒントを伝えることができた。 また、事業の中にも取り入れ、地域子育て支援センター・すてっぷ21・すてっぷ21の利用者以外にも子育ての知恵やヒントを広く伝えることができた。	○
	17	園児の基本的な生活習慣の確立及び生活指導、支援	子育て支援課（保育園）	・保護者懇談会や、連絡帳、お便りを通し、保育園での子どもたちの様子や目標などを知らせながら基本的な生活習慣の確立をめざしている。 ・頑張っている姿や成長している様子を伝え、喜びを共有し、家庭での見守りや協力もお願する。	○
	18	赤ちゃん広場 （事業番号23、118）	★母子保健課 子育て支援課（地域子育て支援センター）	4か月児・10か月児赤ちゃん広場のどちらも全数に周知して実施した。10か月児赤ちゃん広場に関しては、欠席者に対し訪問等でフォローをした。事業の中では健康教育や個別相談を実施。また、参加者にアンケートをとり事業評価を行った。	○
	19	遊びと交流の広場 （事業番号24、103）	★子育て支援課（地域子育て支援センター） 母子保健課	地域子育て支援センター・すてっぷ21において、親子が安心して遊び、交流する場を提供することで多くの親子の利用があった。子育てについての相談も多く、親子の気持ちに添いながら対応した。また、親学習支援事業等、保育園に併設していることで、栄養士・看護師の専門職がいる特徴を活かした支援も実施することができた。	○
	20	家庭教育の支援 （事業番号26、100、164）	★生涯学習振興課 公民館	平成26年度は、家庭教育講演会3回、家庭教育講座3回、家庭教育学級9公民館16学級、幼児親子学級9公民館11学級を開催するなど、家庭教育に関する学習の機会を設けた。	○
	21	総合型地域スポーツクラブの育成 （事業番号68、90）	★文化・スポーツ課	総合型地域スポーツクラブとして萱田・ゆりのき台地域を中心に活動している「八千代中央コミュニティスポーツクラブ」に活動場所を提供し、異世代・多様目で活動できるように支援を行った。	○
4. 子どもたちの自己肯定感を高める取り組みを行います。	22	自己肯定感を高めるための教育活動	学校（★指導課）	千葉県教育委員会が定めた「学校教育指導の指針」を基に、市内小中学校では、生徒指導の機能を重視した「わかる授業」の展開に努めている。例えば、1自己決定の場をつくるために発表の場面を設ける2自己存在感を抱かせるためにグループでの学習を採り入れる3共感的人間関係を育成するために相互評価を採り入れる等、各校が課題を設定し、課題達成へ向けての継続的な取組を行っている。	○
施策の展開（2）：コミュニケーション力をつける					
1. 土台となる親子関係を築くためのサポートの充実を図ります。	23	赤ちゃん広場（再掲） （事業番号18、118）	★母子保健課 子育て支援課（地域子育て支援センター）	4か月児・10か月児赤ちゃん広場のどちらも全数に周知して実施した。10か月児赤ちゃん広場に関しては、欠席者に対し訪問等でフォローをした。事業の中では健康教育や個別相談を実施。また、参加者にアンケートをとり事業評価を行った。	○
	24	遊びと交流の広場（再掲） （事業番号19、103）	★子育て支援課（地域子育て支援センター） 母子保健課	地域子育て支援センター・すてっぷ21において、親子が安心して遊び、交流する場を提供することで多くの親子の利用があった。子育てについての相談も多く、親子の気持ちに添いながら対応した。また、親学習支援事業等、保育園に併設していることで、栄養士・看護師の専門職がいる特徴を活かした支援も実施することができた。	○
	25	親子で楽しい図書館	図書館	市内の4図書館で、0～1歳の親子を対象とした「赤ちゃんと一緒に絵本の会」、2～3歳の親子を対象とした「親子で楽しむ絵本の会」を定期的に開催し、親子で本に親しむ機会を提供した。また、緑が丘図書館では0～1歳児の親子を対象とした「親子で楽しむわらべうた」を開催した。大和田図書館では3歳くらいの親子を対象にボランティア講師による絵具や切り紙を使った「図書館であそぼう」を毎年2回定期的に開催している。	○
	26	家庭教育の支援（再掲） （事業番号20、100、164）	★生涯学習振興課 公民館	平成26年度は、家庭教育講演会3回、家庭教育講座3回、家庭教育学級9公民館16学級、幼児親子学級9公民館11学級を開催するなど、家庭教育に関する学習の機会を設けた。	○
2. 子ども相互の関係を築くためのサポートの充実を図ります。	27	異年齢児の交流の場を提供	★子育て支援課（保育園・学童保育所）	各園、年間を通して予定をたて定期的に話し合いをもち、いろんな遊びや活動を通して年間実施する。	○
			学校（★指導課）	各学校では、上級生と下級生といった異年齢の児童と一緒に活動する縦割り、学校行事や清掃活動に取り組んでいる。また、全校を異年齢の班に分けて活動している小学校もある。中学校では、部活動が異年齢児の交流の場として大きな役割を果たしている。近年では、八千代子どもサミット活動の一環として、地域の小中学生が共にエコキャップ運動や美化活動、挨拶運動に取り組んでいる。	○

目標及び施策の方向性	事業番号	後期計画事業	担当課	実施状況	担当課評価
3. 豊かな人間関係を築いていくため、様々な人々たちとの交流の機会を図ります。	28	世代間交流	(社会福祉協議会)	各地域の特色を活かし、世代間交流、ふれあいサロン(子育てサロン)等、様々な事業を展開。幅広い世代に関わっていただくことで「顔の見える関係づくり」の強化に繋がっている。	○
	29	子どもと様々な人達との交流	★障害者支援課	八千代市身体障害者スポーツ大会に、選手・ボランティアなど419人が参加	○
			★長寿支援課	長寿会連合会のふれあい体験学習及び高齢者能力活動事業の一環として、教育委員会・学校等の依頼によりふれあい教室事業を実施しており、市内の小中学校及び幼稚園、保育園、学童保育所の子どもに対して昔遊びを教えるなど、指導交流を図っている。 市としては、事業を実施する長寿会連合会に対して八千代市老人クラブ運営費補助金要綱に基づき補助を実施している。	○
			★子育て支援課(保育園)	打ち合わせや話し合いを事前に持ち、異年齢の子供たちに合わせた無理のない計画を立てて行いました。	○
			学校(★指導課)	小学校では、総合的な学習の時間等で交流を図り、道徳や学活で振り返ったり発展化させたりする学校もある。中学校では、高齢者の介護施設・障がい者支援施設での福祉体験学習を行っている学校や職場体験での交流がいくつか見られる。小中学校合同お楽しみ会・特別支援学級・特別支援学校との交流・及び共同学習においてのかかわりが広がってきている。	○
30	子どもたちの国際交流	国際推進室	友好都市であるバンコク都と子ども親善大使の派遣・受入事業を行った。(指導課)	○	
31	おもちゃの図書館	(社会福祉協議会)	昨年実施していた障害者福祉センターの来館者数が伸び悩んでいたため、今年度より活動場所を2回とも福祉センターに変更した。変更当初は周知が十分に行き届かなかった影響もあり、来館者数は一時的に減少した。しかし、参加者同士の交流等、新たな試みも図られるようになり、徐々に来館者も増加している。	○	
施策の展開(3)：一人ひとりが大切にされる教育の推進					
1. 子ども一人ひとりを大切に、豊かな育ちを保障する幼児教育の充実を図ります。	32	幼児教育の推進	元気子ども課	幼児教育振興費補助金を各私立幼稚園設置者に交付し、障害児保育や預かり保育に係る経費を対象にしたことをはじめ、教材費や教職員研修費等を支給し、幼児教育の振興を図った。また、市内幼稚園教諭や保育士を対象とした合同研修会を実施し、幼稚園教諭や保育士の資質の向上を図った。	○
	33	子育て支援ネットワークホームページ(事業番号135、170、194)	★元気子ども課 子育て支援課 母子保健課	平成22年3月下旬に開設した子育てに関するサイト「にこにこ☆元気」及び、子ども向けサイト「やちよキッズ」で、情報提供を行った。	○
	34	八千代市幼児教育振興プログラム(事業番号199)	★元気子ども課 子育て支援課(保育園) 指導課 母子保健課	八千代市幼児教育振興プログラム及び同アクションプログラムについては、計画の最終年度にあたり、4年間の評価を行い、今後の課題等検証した。	○
2. 確かな学力の向上を図る取り組みを充実します。	35	学級経営の充実	学校(★指導課)	各校では、いじめ根絶に向け、様々なアンケートを実施したり、相談活動の充実を図ったり、認知後の適切な初期対応の検討等に取り組んできた。しかし、まだ、いじめの問題も不登校の問題も解決できたといえる状況ではない。	—
	36	基礎学力の向上	学校(★指導課)	TTや少人数指導は、学校の現状に合わせて行われている。特別支援教育支援員の派遣については、各学校の要望に合わせて増員を図っている。また、大学生によるボランティア(ドリームティーチャーちび！教職たまごプロジェクト)については、特別な支援や教科の少人数指導の補助等、各学校のニーズが増加し、その要望に応えられるよう、大学へ広く周知し、実施している。	○
3. 学ぶ意欲を大切に、多様な学びを支援します。	37	情操芸術教育	学校(★指導課)	各学校において、音楽会や図画工作・美術作品の制作、書き初め展等の芸術文化活動に取り組むことができた。子ども美術展では、出展者全員に賞状を授与するなどし、児童生徒の関心・意欲を高めることができた。小中学校音楽会については、音楽に関する造詣を深め、一層の関心・意欲を高めることができた。	○
	38	読書教育	学校(★指導課)	図書主任、学校司書について、年3回の研修会を実施している。図書主任については、読書感想文コンクールや読書感想文集についての共通理解を図っている。また、学校司書については、魅力ある図書館づくりや機能的な図書システムについて研修を積んでいる。学校司書は、授業支援も行っている。それぞれの役割に責任をもち、児童生徒たちの読書に対する興味・関心を高め、読書教育の充実を図っている。	○
	39	学校サポート事業	学校(★指導課)	毎年、学校サポーターリスト登録更新を行う。ボランティア要請を待っている地域人材も多い。しかし、学校側は長期的な支援を求めている場合が多く、学校サポーターリストが十分に活かされない状況も散見される。外国人児童生徒については、ボランティアの対応も求められる。しかし、謝礼、事故・傷害等への補償等の問題を考慮すると、ボランティアの依頼にも制約が課されるのが現状である。	—
	40	環境学習(事業番号230)	学校(★指導課)	子どもサミット活動の一環として、美化活動の推進やエコキャップ活動、地域防災・減災に関わる活動に取り組み、環境について興味・関心を高めながら学習を行ってきた。また、理科・生活科・社会科・家庭科等の教科をととした環境学習により、環境保全に対する意識は深まり、広まりつつある。しかし、まだ活動・学習の余地・可能性があると捉えている。	—
			★環境保全課	「子ども環境教室(巣箱づくり)」、「野鳥展」をはじめとした環境学習会を開催した。 また、ふれあい大学での環境学習を実施した。	○

目標及び施策の方向性	事業番号	後期計画事業	担当課	実施状況	担当課評価
4. 学校が安心して楽しい居場所となるように環境整備を図ります。	41	ふるさと意識の醸成	学校(★指導課)	郷土読本「わたしたちの八千代市」において、「古い道具と昔のくらし」、「八千代市の昔マップ」、「開発につくした人々」の各単元について、郷土博物館見学や博物館学芸員による出前授業等を行い、ふるさと意識の醸成を図った。	○
	42	時代の変化に対応した教育	学校(★指導課)	学習指導要領では、平成23年度から小学校5・6年生の英語活動が完全実施となったが、本市では全小学校で平成14年度から、総合的な学習の時間を利用して小学校3年生以上で既に取り組んできた。また、平成20年度の移行準備期間からは、正式に英語活動として取り組んできた。なお、年2回の英語活動主任研修会及び小学校5・6年生担任を対象とした年2回の英語活動研修会を実施して、英語活動の充実に取り組んでいる。	○
	43	学校の適正配置	学務課	将来のまちづくりの視点から重要な公共施設としての小中学校をどのように配置していくのか、全学的な視点に立ち検討を進めている。具体的には、各自治会連合会の代表者、校長会、子ども関係団体関係者等を委員とする学校適正配置検討委員会を開催し、現在は阿蘇・米本地域の学校適正配置について検討を進めている。	○
	44	教育施設の整備	教育総務課	小中学校耐震改修工事等 校舎 11校	○
	45	子どもサミット (事業番号64)	学校(★指導課)	児童生徒の地域活動等への参画、地域と共にする児童生徒活動の実践をとおし、豊かな人間関係をつくっていくことが目的の一つであり、成果も挙がってきている。しかし、子どもたちの主体的で意欲的な実践力の育成といった観点より、まだ達成すべき課題が残っていると捉えている。	—
施策の展開(4) : 特に支援を必要とする子どもへの支援					
1. 不登校、ひきこもり児童への対応の充実を図ります 2. 問題行動を引き起こす児童への対応の充実を図ります 3. 障害のある児童への対応の充実を図ります 4. ひとり親の子どもへの支援の充実を図ります。	46	不登校・ひきこもり児童への支援	★子ども相談センター フレンド八千代(指導課) 障害者支援課	関係機関へ、不登校やひきこもりの実態を周知するとともに、専門職からのアドバイスや助言を含む事例検討等の機会を5回実施。27名の参加があった。参加者の所属は、学校教員(教頭、担任、特別支援コーディネーター、養護教諭)、指導課、適応支援センター「フレンド八千代」、障害者支援課等。	○
	47	子どもや家庭からの相談・支援	★青少年センター 子ども相談センター	相談者が抱えている青少年の問題や悩みを気軽に話し、精神的に負担を軽減するような場となっている。相談内容から、非行等の前兆をとらえ、青少年の健全育成のための支援を適切に行っている。	○
	48	少年少女の更正を手助けする市民活動の推進	健康福祉課	すべての国民が、犯罪や非行の防止と罪を犯した人たちの更生について理解を深め、それぞれの立場において力を合わせ、犯罪や非行のない地域社会を築くための全国的な運動「社会を明るくする運動」の八千代市地区大会を関係機関と連携を図りながら実施した。	○
	49	特別支援教育	学校(★指導課)	児童発達支援センターや、ことばと発達の相談室、子育て支援課等との連携により、就学に際しての引き継ぎが円滑になってきている。また、各校で必要に応じて関係機関と連携を図りながら、校内委員会も円滑になりつつある。就学後の児童生徒・学校へのフォローアップもなされるようになってきたが、保護者・担任へのアプローチが不足している。	—
	50	教員研修の実施	指導課	特別支援教育コーディネーター、特別支援学級等担当者、特別支援教育支援員、特別支援学級介添人それぞれを対象とした各研修会を実施した。その後、学識経験者や特別支援学校職員等による特別支援教育講演会を保護者、市民にも公開して実施した。実際の校内支援で、研修での学びが直結できないケースが多い。研修の時期や回数、検討、研修後のフォローが必要である。	—
	51	障害児に関する機関による支援の充実	★児童発達支援センター ★障害者支援課	保健センターや病院との連携をしながら、疾病や発達状況に合わせて外来療育や訪問で対応することができた。また、保護者の不安や心配にも面談をもちながらすすめることができた。 障害者手帳交付時や障害福祉サービスの利用等の相談時に状況把握し、必要に応じて児童相談所、子ども相談センター、児童発達支援センター等の専門職員と連携し、障害のある児童への対応を行った。	○ ○
	52	様々な人達との交流	学校(★指導課)	八千代特別支援学校に在籍する児童との交流が、小学校との間で行われた。また、特別支援学級設置校においては、校内の通常の学級と特別支援学級との交流及び共同学習が進められている。また、特別支援学級合同作品展で、一般に学習成果も公開しており、交流等についても指導課並びに学校のホームページ等で紹介されている。就学相談においては、必要に応じて特別支援学級の見学や体験入級を行っている。	○
	53	日常生活の向上	障害者支援課	障害者総合支援法による、補装具・日常生活用具の支給により、障害のある児童の日常生活の向上を図ることができた。	○
	54	地域社会への参加	障害者支援課	障害のある児童が地域で生活する上で障害福祉サービス等の利用がある場合には、障害児相談支援事業所等による個別のサービス利用計画が策定されることとなっております。また、第3次障害者計画において重点施策として、一人ひとりにあったサービスの提供および社会参加の支援・促進を掲げ、ご本人やご家族の意向を十分に把握し適切なサービスが受けられるような支援に努めました。	○
	55	精神障害を抱える子ども及び家族への支援	障害者支援課	継続的に相談窓口の周知、関係機関との連携に努めた。障害福祉サービスの案内や関係機関等からの要請に応じてケース会議に参加したり、面接の同席を行った。	○
56	お兄さんお姉さん学習支援事業	子育て支援課	生活支援課の事業として、ひとり親家庭も含め低所得家庭向けの支援としてNPOと協働で実施していたが、参加人数の増加により生活保護世帯の児童のみを対象とすることとなった。	—	

目標及び施策の方向性	事業番号	後期計画事業	担当課	実施状況	担当課評価
5. 外国籍の親を持つ子どもへの対応の充実を図ります。	57	教育内容が保障できる環境整備	学校(★指導課)	日常生活言語はある程度できるようになっても、授業の内容を理解するための学習言語の習得には時間を要する。また、毎年、新規に海外から編入してくる外国人児童生徒がいるため。	—
	58	子どもや家庭の相談体制の整備	学校(★指導課)	12名の外国人児童生徒等教育相談員を学校に派遣し、外国人児童生徒を支援していただいた。対応言語は、ポルトガル語・スペイン語・中国語・英語・タガログ語・タイ語・ベトナム語であった。日常生活及び学校生活についての相談活動も積極的に行ったが、まだ日本語指導を必要とする外国人児童生徒は多く、十分な対応とはいえない。	—
具体的目標2：子どもたちの自己決定を支える					
施策の展開(1)：子どもの権利の尊重					
1. 子どもの権利を尊重するための基盤づくりをすすめます。	59	子ども人権ネットワーク会議(事業番号76、122、196)	元気子ども課	年4回会議を開催し、関係団体や関係機関と連携を図りながら、子どもの権利に関する条例についての検討や、自己肯定感や意識の差、安心して生きる権利、子どもの育つ権利が侵害されている実態、子どもの居場所の大切さ、子どもの参加について意見交換を行った。	○
	60	子どもの権利に関する条例の制定の検討	元気子ども課	子どもの人権問題について意見交換を行い、子どもの権利に関する条例制定の検討結果報告書のとりまとめや、子どもの人権に関する様々な取り組みの課題について検討した。	○
	61	子ども自身が身を守るための学習プログラムの導入	学校(★指導課)	「八千代市小中学校危機管理マニュアル」を基に、各小中学校で、不審者対応や登下校時の安全確保等を進めている。各校での「地域安全マップ」づくりや交通安全教室、防犯教室等への取組を、今後も進めていく。	—
	62	社会人権教育地区別研修会(事業番号124)	生涯学習振興課	県が主催し、葛南地区5市で協力して「社会人権教育地区別研修会(葛南地区)」を実施。平成26年度は、7月に市川市生涯学習センターにて研修1「千葉県の人権施策について」の説明と、研修2は弁護士馬場和佳氏による「弁護士によるいじめ防止出張授業の取り組みについて」と題した講演会を開催した。本市からも家庭教育指導員や社会教育指導員、学校関係者など13名が参加。全体で110名もの参加があり、アンケートの反応も概ね好評であった。	○
施策の展開(2)：子どもの意見表明と参加の促進					
1. 施策や事業のなかで、子どもたちの意見を反映させ、運営などへの参加の促進を図ります。	63	子どもと地域住民の参画の推進	★元気子ども課	放課後子ども教室などで、子どもの想像性、積極性を活かしたイベント企画などを実施した。事業の実施にあたり、地域ボランティアの協力も得ながら実施した。	○
			★公園緑地課	公園施設の管理運営については、住民参画として平成26年度において新規アダプト登録は4団体・1個人。平成26年度末で41団体・個人18名のアダプト登録があり、326公園のうち74箇所環境美化活動が行われている。平成26年度はアダプト活動の意見交換会を開催するとともに、市ホームページでアダプト活動の紹介、市内小中学校PTA会長に対しアダプト活動の啓蒙活動を実施した。	○
	64	子どもサミット(再掲)(事業番号45)	学校(★指導課)	児童生徒の地域活動等への参画、地域と共にする児童生徒活動の実践をとおし、豊かな人間関係をつくっていくことが目的の一つであり、成果も挙がってきている。しかし、子どもたちの主体的で意欲的な実践力の育成といった観点より、まだ達成すべき課題が残っていると捉えている。	—
	65	学校行事の企画への参加	学校(★指導課)	全ての小中学校で、児童・生徒会活動、委員会活動に取り組み、児童生徒の発想を活かした活動がなされている。特に児童・生徒会活動は、どのようにすればよりよい学校生活を送ることができるのかを大きな目標の一つとして、積極的な活動に取り組んでいる。	○
	66	子どもの広報活動への参加	★青少年課	平成23年度より子ども・若者への体験等の情報提供事業として、市のホームページ内に「はっぴいういんど」という名称のサイトを開設したが、情報誌「やっぴい」のように子どもたちが投稿できる参加型の形式ではないため。	—
			★広報広聴課	広報やちよに青少年版を掲載。市内の小中学校・中学校・高校41校の各中学校長から推薦を受けた青少年版記者が、1広報広聴課が指定したテーマ、2学校での身近な話題、3新聞やテレビのニュースへの意見について原稿を執筆した。	○
	67	子どもの意見を取り入れた公民館事業等の促進	★公民館生涯学習振興課	小・中学生を対象とした講座を土・日曜日及び、夏・冬休み又、放課後など幅広く行った。講座終了後にはアンケート調査を必ず行い、子どもの意見を取り入れた活動を実施している。	○
	68	総合型地域スポーツクラブの育成(再掲)(事業番号21、90)	★文化・スポーツ課	総合型地域スポーツクラブとして萱田・ゆりのき台地域を中心に活動している「八千代中央コミュニティスポーツクラブ」に活動場所を提供し、異世代・多様目で活動できるように支援を行った。	○
	69	八千代市青少年指導員制度の充実	青少年課	25年度に委嘱をした青少年指導員230人に、スポーツ・文化・生活の各分野で地域の子どもの指導にあたっていただいた。	○
	70	インターネット等による施設予約	★文化・スポーツ課	使用する際、団体登録をするが18歳未満だけでは登録ができないため。	—
★公民館生涯学習振興課			八千代市立公民館管理運営要領第12条により、未成年者のみでの公民館施設利用は許可できないこととなっているため。インターネット等による施設予約システムへの利用登録はできません。ただし、保護者または成人の指導者が同伴する場合は利用することができます。	—	

目標及び施策の方向性	事業番号	後期計画事業	担当課	実施状況	担当課評価
	71	子ども参加の促進	元気子ども課	各担当課へ提出依頼している次世代育成支援行動計画に掲げた計画事業の執行状況調査の中で、子ども参加の有無について調査を行った。	○
施策の展開 (3) : 子ども自身の相談・救済体制をつくる					
1. 子ども自身が自由に相談できる体制を充実させます。	72	おにいさん・おねえさん子ども電話相談 (事業番号209)	子ども相談センター	子ども自身から直接、学校生活に関すること、成長発達に関すること、家庭に関すること等の相談が寄せられ、子どもの意思表示の場になっている。また相談を受ける大学生の立場からは、相談されることが経験できる場となっている。	○
	73	子ども相談センター (事業番号187)	子ども相談センター	関係機関と連携しながら、問題解決のための資源情報を提供したり、当事者が問題解決できるように継続的な支援を行った。	○
	74	指導課・教育センター・青少年センターの相談業務の充実	★指導課	適応支援センターも含め、常に連絡調整を図り、相談活動を推進している。中学校にはスクールカウンセラーが配置されているが、週1回程度の勤務である。小学校では2校に配置されているが、2週に1回程度の勤務である。	—
			★教育センター	相談者の不安や迷い等に対し、適切な助言、支援をすることは大変難しいことであるが、相談に対し、関係する機関と連携し、対応することができた。相談内容が多岐にわたり、すべてが達成できるものではない。	—
			★青少年センター	相談者が抱えている青少年の問題や悩みを気軽に話し、精神的に負担を軽減するような場となっている。相談内容から、非行等の前兆をとらえ、青少年の健全育成のための支援を適切に行っている。	○
75	スクールカウンセラー	指導課	スクールカウンセラー延べ13名が、市内全11の公立中学校及び2公立小学校に配置され、週1回1日6時間程度の勤務を行っている。更にそれぞれのカウンセラーが、中学校区の小学校についても、児童生徒だけでなく保護者に対しても心理面のサポートを行っている。カウンセリングの要望が多く、十分に対応できていないのが現状である。	—	
2. 子どもが尊厳を持って暮らすことができるような子どもの救済の仕組みをつくりまします。	76	子ども人権ネットワーク会議 (再掲) (事業番号59、122、196)	元気子ども課	年4回会議を開催し、関係団体や関係機関と連携を図りながら、子どもの権利に関する条例についての検討や、自己肯定感や意識の差、安心して生きる権利、子どもの育つ権利が侵害されている実態、子どもの居場所の大切さ、子どもの参加について意見交換を行った。	○
	施策の展開 (4) : 情報を自分自身の力にするための支援				
1. 子どもたちが必要な情報を得るための情報提供体制の整備を図ります。	77	子どもに対する情報提供の検討	★青少年課	市のホームページ内「はっぴいういんど」により、子ども・若者への体験等の情報提供事業を行っているが、よりたくさんの情報が検索できるよう情報提供の形式を提供元のHPにリンクする形に変更し、子どもに向けた体験情報の提供を充実させた。	○
			★元気子ども課	平成22年3月下旬に開設した子ども向けサイト「やちよキッズ」で、子どもに向けた情報提供を行った。	○
2. メディア情報を適切に受け取ったり発信したりする能力を高める教育をすすめます。	78	メディアリテラシー教育の推進	教育センター	子どもたちを取り巻く環境に、日々発達するメディアが多くの影響を与えている。インターネットやSNSを介したトラブル等も発生している。社会の情報化が加速し、新たな課題が次々に発生している。一方で、文部科学省の指針や学習指導要領を通して、ICTを効果的に活用した学習が推進されている。それらに対応していくためにも、引き続きメディアリテラシー教育及び情報モラル教育の充実を図る必要がある。	—
具体的目標3 : 子どもたちの遊び・文化・地域活動を支える					
施策の展開 (1) : 子どもの居場所づくり					
1. 子どもたちと一緒に子どもの居場所を地域につくりまします。	79	放課後子ども教室	元気子ども課 (生涯学習振興課)	小学校3校及び校外1か所で開催した。	○
	80	学校施設の開放	文化・スポーツ課	市民に生涯スポーツが浸透し、使用希望者が増加しているため。	○
	81	都市公園、児童遊園等の整備	公園緑地課	既設公園について、職員による遊具及び施設の日常点検を実施、安全性把握に努めた。点検結果を基に修繕及び補修を実施。修繕に関しては、地域住民の意見を取り入れた箇所もある。	○
	82	図書館の充実	★図書館 生涯学習振興課	おはなし会のほか切り紙や工作の会などの主催事業を実施し、子どもたちが図書館に来館する機会を提供した。小中学生の職場体験や図書館見学の受け入れ、団体貸出の充実、小中学校等への配本サービスを実施し小中学校との連携を図った。また、子どもたちが本に親しむ機会をより多く持てるように学校や地域で読み聞かせを行うボランティア育成のための読み聞かせ講座も開催した。	○
	83	児童館の設置の検討	★元気子ども課	児童館設置については、引き続き、検討することに位置づけた。	○
			★子育て支援課	児童館の必要性については、いまだ検討段階にあり、設置の結論にまでいたらなかったため。	—
	84	新川わくわくプレーパーク (事業番号88、211)	元気子ども課	年間124日開催し、子ども1,744人、大人1,025人、合計2,769人の利用があった。	○

目標及び施策の方向性	事業番号	後期計画事業	担当課	実施状況	担当課評価
	85	フリーパレット (事業番号210)	子育て支援課	水曜日、木曜日、土曜日で開所。小中高生が学校・学年や性別に関係なく自由に利用し、おしゃべりをしたり遊んだり、好きなことをしながらお互い交流して過ごせるようにした。	○
	86	青少年学校外活動支援事業 (事業番号91)	青少年課	指導者等の講習・研修会の開催や物品提供等の支援をしたことにより、市内各地区で10団体(実行委員会)が地域の特性を活かした活動を展開した。また、活動場所(体育施設)の予約手続きを簡素化し、活動の際の便宜を図った。	○
施策の展開(2): 遊び・体験活動事業の充実					
1. 自ら考え行動する力を高めるために、子どもがさまざまな遊びや体験をする機会を積極的に提供していきます。	87	青少年団体指導者養成講座 (事業番号204、213)	青少年課	青少年団体の指導者としての基礎的な知識や技術を身につけるための青少年団体指導者養成講座「友・遊・カレッジ」全5回を開催し、指導者の養成を図った。	○
	88	新川わくわくプレーパーク (再掲) (事業番号84、211)	元気子ども課	年間124日開催し、子ども1,744人、大人1,025人、合計2,769人の利用があった。	○
	89	少年自然の家の活用	少年自然の家	継続的に受け入れ事業は行っているが、年度内でも毎回入所対象は異なり、利用者ごとにその利用目的や発達段階に即した臨機応変な対応が必要とされるため、一概に目的の達成状況を判断することは困難と考えます。(その一方で、大勢の利用者の方々に満足していただけるような、充実した活動プログラムの開発への取り組みは今後も続けて参ります。)	—
	90	総合型地域スポーツクラブの育成(再掲) (事業番号21、68)	★文化・スポーツ課	総合型地域スポーツクラブとして萱田・ゆりのき台地域を中心に活動している「八千代中央コミュニティスポーツクラブ」に活動場所を提供し、異世代・多様目で活動できるように支援を行った。	○
	91	青少年学校外活動支援事業 (再掲) (事業番号86)	青少年課	指導者等の講習・研修会の開催や物品提供等の支援をしたことにより、市内各地区で10団体(実行委員会)が地域の特性を活かした活動を展開した。また、活動場所(体育施設)の予約手続きを簡素化し、活動の際の便宜を図った。	○
	92	子どもの遊びの理解を深める啓発活動	子育て支援課(保育園)	・各園において年間1回から2回程度の保育参観・保育参加を開催し、子どもの遊びの様子を見てもらったり一緒に遊んでもらうなどして、子どもの遊びや遊ばせ方等を知ってもらおう。 ・園だより・くらすだよりなどを定期的に発行し、保育園での遊びの様子を知らせる。また、日々の遊びや生活の様子をクラスの掲示板などを利用して知ってもらい、関心、理解を深めてもらう。	○
	93	子どもたちの遊び場の情報化の支援	★子育て支援課	利用者が少なく、子どもたちの自主的な活動など支援することができなかった。	—
			★元気子ども課	子どもたちの遊び場や居場所として、放課後子ども教室を小学校3校及び校外1か所において実施し、事業に対する利用者(子ども)アンケートなどで情報の収集を行った。また、大人からの情報提供として、各居場所ごとに通信紙の発行等を行い、子どもが開催日程等の情報を得られるようにした。	○
	94	文化伝承館運営事業	文化伝承館	ボランティア団体(ゆいの会・本だいきの会)や伝統文化団体(八千代市茶道連盟・八千代市三曲協会)などの協力によって、八千代の伝統文化を習おう(昔遊び編・物づくり編・紙芝居と昔話の会)、伝統文化を習おう(子ども茶道入門・子ども邦楽教室・子ども日舞入門)などの事業を実施した。	○
	2. 子どもたちの遊びを充実させるために人材を育成していきます。	95	まちづくりふれあい講座	生涯学習振興課	基本的に開催希望のあった講座については、台風等の理由で中止になったもの及び業務の都合上職員の派遣が出来なかったものの2件を除き全て実施できた。このことにより、施策への理解が深まったと考えている。
96		ふれあい教室 (事業番号207)	生涯学習振興課	148件の開催希望に対して、開催できなかったものは18件でした。これは、特定の日時に開催希望が集中した後の調整で、ボランティア側と希望側のスケジュールが合わなかったことが主な事由です。こうした例外を除いて、概ね目的に沿って事業が実施できたと考えています。	○
97		青少年育成団体への支援	青少年課	補助金交付・後援等により青少年育成団体活動が推進された。	○

基本目標2: 親も子と一緒に成長し、安心して子育てできる

具体的目標1: 子育て家庭が子育てする力(育てる力)をつける

施策の展開(1): 子育ての基本と喜びを伝える支援

1. 子どもを育てているすべての家庭が子どもにとって大切なことを知り、安心して子どもを産み、子育てができるような環境づくりをすすめていきます。	98	保健・福祉・教育機関の連携	★母子保健課	保健・福祉に関しては、地域子育てネットワーク事業として、妊娠期から一体的に事業提供をしているので達成できたと考える。また、社会教育分野(公民館)とは、地域会議(地域情報交換会)に参加してもらい、地域の課題や取り組みについて双方の理解を深めた。社会教育分野(生涯学習振興課)のブックスタート事業を4か月赤ちゃん広場にて実施する体制を整え、取り組んでいる。	○
			★子育て支援課(地域子育て支援センター) 生涯学習振興課 公民館	保健・福祉に関しては地域子育て支援ネットワーク事業として一体的に事業提供をしている。社会教育分野(公民館)とは、地域情報交換会に参加してもらい、お互いの事業の理解を深めるようにしている。社会教育分野(図書館)と福祉(地域子育て支援センター)と連携して行っているブックスタート事業を26年度も行った。	○

目標及び施策の方向性	事業番号	後期計画事業	担当課	実施状況	担当課評価
	99	家庭教育相談員等ネットワーク推進協議会	生涯学習振興課	「家庭教育相談員等ネットワーク推進協議会」の代わって平成26年度に「家庭教育相談担当者協議会」を開催。平成26年10月16日に船橋市中央公民館にて、山陽学園大学教授・近藤卓氏による「子どもの自尊感情を育てるためのかわり方」と題した講演会を実施。県が主催で葛南五市が協力して家庭教育や子育て青年健全育成等の相談業務に携わる者を募った。本市からも家庭教育指導員・社会教育指導員が参加、全体的な反応も大変良かったと葛南教育事務所から報告があった。	○
	100	家庭教育の支援（再掲） （事業番号20、26、164）	★生涯学習振興課 公民館	平成26年度は、家庭教育講演会3回、家庭教育講座3回、家庭教育学級9公民館16学級、幼児親子学級9公民館11学級を開催するなど、家庭教育に関する学習の機会を設けた。	○
	101	親学習支援事業（子育てワークショップ「おしゃべり広場」） （関連事業番号10、16）	★子育て支援課（地域子育て支援センター） 母子保健課	参加しやすい場所やテーマを各地域子育て支援センター・すてっぷ21で調整し実施した。	○
	102	幼稚園との連携	元氣子ども課	幼児教育振興プログラムに基づき、幼稚園教諭・保育士の合同研修会を開催した。	○
施策の展開（2）：親同士の活動の促進					
1. 子育ての仲間づくりの場や機会を提供します。	103	遊びと交流の広場（再掲） （事業番号19、24）	★子育て支援課（地域子育て支援センター） 母子保健課	地域子育て支援センター・すてっぷ21において、親子が安心して遊び、交流する場を提供することで多くの親子の利用があった。子育てについての相談も多く、親子の気持ちに添いながら対応した。また、親学習支援事業等、保育園に併設していることで、栄養士・看護師の専門職がいる特徴を活かした支援も実施することができた。	○
2. 子育てサークル活動を支援します。	104	子育てサークル活動への支援	★子育て支援課（地域子育て支援センター） 公民館	新年度、代表者の交代や活動場所の変更などの情報を収集し、新しい情報の提供を行ったり、新しく立ち上がった子育てサークルのポスターなどを地域子育て支援センターで掲示した。子育てサークル活動に役立つ道具の貸し出しを行い、支援した。	○
3. 子育ての経験者からこれから子育てする人へ子育ての体験を伝えていきます。	105	子育て経験者や地域の人が子育て支援を行う場の提供	子育て支援課（地域子育て支援センター）	地域子育て支援センター・すてっぷ21での事業に保育ボランティアをしたり、栄養相談、読み聞かせ、レクダンス、やちよ元気体操、「音とあそぼう」など特技を活かしたボランティア活動が展開された。地域情報交換会でボランティア募集のPRをした。	○
	106	マタニティ広場	★子育て支援課（地域子育て支援センター） 母子保健課	各地域子育て支援センター・すてっぷ21でマタニティ広場を開催。妊娠期より地域子育て支援センター・すてっぷ21の遊びと交流の広場を利用してもらうことで友達づくりや妊娠、出産への不安の軽減などを図っている。	○
施策の展開（3）：男女一緒に子育て支援					
1. 男女で子育てする意識の啓発をしていきます。	107	パパとママの子育て教室	母子保健課	・沐浴実習や座談会を通して赤ちゃん和生活するイメージができた人の割合…パパ97.6%ママ99.5% ・父親が育児に参加することが大切だと思えた人の割合…パパ99.1%ママ96.8% ・夫婦で協力して子育てをしていこうという思いが高まった人の割合…パパ99.1%ママ99.1%	○
	108	はじめてのパパママ保育体験 （事業番号119）	子育て支援課（保育園併設の地域子育て支援センター）	「はじめてのパパママ保育体験」を母子健康手帳交付時に紹介し参加の呼びかけを行った。保育園の見学や在園児の様子を見ながら育児の方法やかわり方などを学ぶ場になった。	○
	109	男女共同の子育ての推進 （事業番号111）	★元氣子ども課	平成22年3月に開設した、子育てに関するサイト「にこにこ☆元氣」に、「お父さんの子育て」の項目を設けており、父親への子育てに関する情報提供をした。また、子育て中の父親や母親・地域子育て支援センター・男女共同参画課で作成した父親の子育て参加のためのしおりを元氣子ども課窓口で配付した。	○
			★子育て支援課（保育園）	・保育園への送迎で父親の姿は、多く見るようになり協力しあう様子を感じているが、園行事への参加については、参加しやすいように、早めに日程を知らせたり、数日設けたりなどの工夫をしても、仕事の兼ね合いで難しかった。 ・保護者懇談会やお便りなどで子育てについての話題を投げかけたりしているが、父母の意識は様々なので継続して行っていく必要があった。	-
			★子育て支援課（地域子育て支援センター）	地域子育て支援センター・すてっぷ21・すてっぷ21で「お父さんと一緒にあそぼうよ」を実施。父親同士の交流や先輩パパからの子育て情報を得る機会になっていた。19年度作成の「子育てにかかりたいパパのためのしおり」を各地域子育て支援センター・元氣子ども課・男女共同参画室・すてっぷ21大和田・勝田台で配布。マタニティ広場や4か月児赤ちゃん広場、母子手帳交付時等に参加した父親にしおりを手渡し、子育ての情報や夫婦で子育てする意識の啓発を行った。	○
			★男女共同参画課	子育てする父親のためのしおりの配布や、男女共同参画センターだけで子育てに関わる講座の情報提供や男女共に参加しやすい行事等の検討を行った。	○
			★男女共同参画センター	主催講座としてパパ&ママ講座、パパとママと一緒に「大きな手でごきげん赤ちゃん」（全3回）・同窓会（1回）を開催、ベビーサインやベビータンダンス、ベビーマッサージなどを行った。夏休みには父親と子どもを対象に「パパと作るランチプレート」を開催。両講座とも、父親に対して家事・育児への意識啓発を行い、男女共同参画を図った。また、男女共同参画センター利用者に子育てに関する情報提供を行った。	○

目標及び施策の方向性	事業番号	後期計画事業	担当課	実施状況	担当課評価
2. 父親の子育てを推進していきます。	110	地域子育て支援センターでの父親が参加しやすい場の提供の検討	子育て支援課（地域子育て支援センター）	地域子育て支援センターやすてっぷ21で「お父さんと一緒にあそぼうよ」を実施した。会の中で、父親同士の交流会やパパの簡単クッキングなど、父親向けの企画にも取り組んだ。「夫婦で子育て」会議を立ち上げ、情報共有や意見交換、千葉県男女共同参画センターフェスティバルへの参加なども行った。	○
	111	男女共同の子育ての推進（再掲） （事業番号109）	★元気子ども課	平成22年3月に開設した、子育てに関するサイト「ここに☆元気」に、「お父さんの子育て」の項目を設けており、父親への子育てに関する情報提供をした。また、子育て中の父親や母親・地域子育て支援センター・男女共同参画課で作成した父親の子育て参加のためのしおりを元気子ども課窓口で配付した。	○
			★子育て支援課（保育園）	・保育園への送迎で父親の姿は、多く見るようになり協力しあう様子を感じているが、園行事への参加については、参加しやすいように、事前に日程を知らせたり、数日設けたりなどの工夫をしても、仕事の兼ね合いで難しかった。 ・保護者懇談会やお便りなどで子育てについての話題を投げかけたりしているが、父母の意識は様々なので継続して行っていく必要があった。	—
			★子育て支援課（地域子育て支援センター）	地域子育て支援センター・すてっぷ21・すてっぷ21で「お父さんと一緒にあそぼうよ」を実施。父親同士の交流や先輩パパからの子育て情報を得る機会になっていた。19年度作成の「子育てにかかわりたいパパのためのしおり」を各地域子育て支援センター・元気子ども課・男女共同参画室・すてっぷ21大和田・勝田台で配布。マタニティ広場や4か月児赤ちゃん広場、母子手帳交付時等に参加した父親にしおりを手渡し、子育ての情報や夫婦で子育てする意識の啓発を行った。	○
			★男女共同参画課	子育てする父親のためのしおりの配布や、男女共同参画センターだよりで子育てに関わる講座の情報提供や男女共に参加しやすい行事等の検討を行った。	○
			★男女共同参画センター	主催講座としてパパ&ママ講座、パパとママと一緒に「大きな手でごきげん赤ちゃん」（全3回）・同窓会（1回）を開催、ベビーサインやベビータンダンス、ベビーマッサージなどを行った。夏休みには父親と子どもを対象に「パパと作るランチプレート」を開催。両講座とも、父親に対して家事・育児への意識啓発を行い、男女共同参画を図った。また、男女共同参画センター利用者に子育てに関する情報提供を行った。	○

具体的目標2：安心して子どもを生み育てるための支援

施策の展開（1）：子育てスタート支援

1. 妊娠期からの親と子どもの健康を守っていきます。	112	産科・小児科と行政の連携援助サービス体制づくり	母子保健課	母子保健事業検討委員会で妊婦健診や幼児健診の受診率、予防接種の接種率等の報告を行うとともに事業のあり方について検討した。また、妊娠期からの養育支援の強化に向けて、市内妊娠・出産関連機関との連絡会を開催し情報共有や今後の連携について確認した。	○
	113	妊婦・乳幼児健康診査（内科・歯科）	母子保健課	幼児健康診査（内科）は、八千代市幼児健康診査マニュアルに基づき実施し、保健師や栄養士が事後支援をしている。幼児健康診査（歯科）の集団健診では、全員面接を行い支援している。また、健康診査未受診者については訪問等で状況把握するよう支援を行っている。 幼児健康診査受診率向上のため、1歳6か月児健康診査（内科）対象者に歯科健康診査時の勧奨を、3歳児健康診査（内科・歯科）対象者に受診勧奨はがき郵送を行っている他、3歳児健康診査（内科）委託医療機関にて歯科健康診査の受診勧奨カードの配布を行っている。	○
2. 妊娠期からの子育て不安の軽減を図ります。	114	母子健康手帳の交付	★母子保健課 子育て支援課（地域子育て支援センター）	地域子育て支援センターでの母子健康手帳交付率は前年度に引き続き30%台を維持できており（平成25年度34.2%→31.3%）母子保健課及び地域子育て支援センターでの交付率は（平成25年度52.7%→平成26年度49.2%）となっている。	○
	115	マタニティ講座	母子保健課		○
	116	新生児（生後1か月）訪問	母子保健課	・出生連絡票の提出数 1375件 平成26年度出生数からみた提出率は86%と増加し、それに伴い早期に対応すること、対応件数も増加した。 ・新生児訪問 278件、新生児電話支援 1044件 保健師や助産師による訪問や電話を実施した1322件中、518件（39.2%）は継続的な関わりが必要と判断し、その後訪問や電話等での継続支援を行っている。	○
	117	乳児家庭全戸訪問事業（母子保健推進員等）	母子保健課		○
	118	赤ちゃん広場（再掲） （事業番号18、23）	★母子保健課 子育て支援課（地域子育て支援センター）	4か月児・10か月児赤ちゃん広場のどちらも全数に周知して実施した。10か月児赤ちゃん広場に関しては、欠席者に対し訪問等でフォローをした。事業の中では健康教育や個別相談を実施。また、参加者にアンケートをとり事業評価を行った。	○
119	はじめてのパパママ保育体験（再掲） （事業番号108）	子育て支援課（保育園併設の地域子育て支援センター）	「はじめてのパパママ保育体験」を母子健康手帳交付時に紹介し参加の呼びかけを行った。保育園の見学や在園児の様子を見ながら育児の方法やかかわり方などを学ぶ場になった。	○	

目標及び施策の方向性	事業番号	後期計画事業	担当課	実施状況	担当課評価
	120	ファミリー・サポート・センター (事業番号147、191)	子育て支援課	市のホームページ「にこにこ☆げんき」や広報やちよでの記事の掲載・各地域子育て支援センター・すてっぷ21・保健センターでのポスター掲示やちらい配布。基礎研修会、会員相互の交流会、講習会等の実施。地域子育て支援センター・すてっぷ21での「おしえて！ふあみさほ」の実施。地域子育て支援ネットワーク事業地域情報交換会への参加。	○
3. 地域の子育ての拠点となる場の拡充を図ります。	121	地域子育て支援センターにおける機能の充実	★子育て支援課(地域子育て支援センター) 母子保健課	母子保健課と地域子育て支援センター・すてっぷ21が連携し、各地域に合わせた地域活動計画を作成し子育て支援を実施することができた。また、地域子育て支援センターが遠い地域では、出前「遊びと交流の広場」を開催。場所や実施回数が増え、利用者にとって使いやすい出前「遊びと交流の広場」になった。	○
施策の展開(2)：虐待発生予防のための支援					
1. 虐待が起こらないような環境づくりをすすめていきます。	122	子ども人権ネットワーク会議(再掲) (事業番号59、76、196)	元気子ども課	年4回会議を開催し、関係団体や関係機関と連携を図りながら、子どもの権利に関する条例についての検討や、自己肯定感や意識の差、安心して生きる権利、子どもの育つ権利が侵害されている実態、子どもの居場所の大切さ、子どもの参加について意見交換を行った。	○
	123	地域子育て支援ネットワーク事業 (事業番号192、195、215)	★子育て支援課(地域子育て支援センター) 母子保健課 子ども相談センター	母子健康手帳交付や全数対象事業(4か月児赤ちゃん広場・10か月児赤ちゃん広場・もうすぐ1歳半おやこ広場)など妊娠から出産、乳幼児期までの切れ目のない支援を実施。他機関との連携を図りながら交流の必要な親子への支援を行っている。また、市民や各子育て支援関係団体と地域情報交換会を開催し、安心して子育てができる地域づくりについての情報交換を行った。	○
	124	社会人権教育地区別研修会(再掲) (事業番号62)	生涯学習振興課	県が主催し、葛南地区5市で協力して「社会人権教育地区別研修会(葛南地区)」を実施。平成26年度は、7月に市川市生涯学習センターにて研修1「千葉県の人権施策について」の説明と、研修2は弁護士の馬場和佳氏による「弁護士によるいじめ防止出張授業の取り組みについて」と題した講演会を開催した。本市からも家庭教育指導員や社会教育指導員、学校関係者など13名が参加。全体で110名もの参加があり、アンケートの反応も概ね好評であった。	○
	125	虐待の未然防止・進行防止	★子ども相談センター 母子保健課	事業目的を虐待の再発・進行防止に絞って実施。参加者の感想に「どうして子どもにつらくあたってしまうのか考えられることができた」という記載があり、親子の関わり等に気づくことで、母親自身の振り返りの場となり、満足感が高かったと考えられる。	○
	2. 母子保健事業の中で養育困難家庭の早期発見と支援を実施します。	126	養育支援事業(早期発見と対応) (事業番号186)	★母子保健課 子育て支援課(地域子育て支援センター) 子ども相談センター	妊娠期・乳幼児期の事業で全数把握事業を通して養育支援が必要な家庭の発見を行っている。母子保健課内の支援基準を設け、母子保健事業の案内時期や事業の未参加・未受診時に電話や訪問で対応することや、必要な人へは事業の参加・受診にかかわらず支援を行う体制を取っている。家庭の状況に応じた虐待・要支援家庭・特定妊婦・所在確認が出来ない児童の場合は、子ども相談センターへ報告し、要保護児童地域対策協議会のケースとして対応している。
施策の展開(3)：子どもと親の健康と医療の充実(医療・保健体制の整備)					
1. 夜間・休日の緊急時の医療体制の整備を図ります。	127	東京女子医科大学八千代医療センターと地域医療機関の連携を支援	健康福祉課	八千代医療センターで行っている地域医療関係との連携事業で掛かった経費に対して、東京女子医科大学と締結した基本協定に基づき一部を助成した。	○
施策の展開(4)：経済的支援の充実					
1. 子育て家庭へ経済的支援を行います。	128	児童手当(子ども手当)	元気子ども課	児童の健全な育成及び資質の向上についての支援支給を継続する。	○
	129	子ども医療費助成	元気子ども課	平成26年8月診療分より通院・調剤に係る医療費に対する助成対象を、従前の「小学校3年生まで」から「中学校3年生まで」に拡大した。	○
	130	就学援助	★学務課 保健体育課	対象者に対して、援助費を支給し扶助した。	○
2. 幼稚園教育の振興を図るため、保護者への経済的支援を行います。	131	私立幼稚園等就園奨励費補助金	元気子ども課	国の基準に該当する第2子と第3子においては所得制限が撤廃され、第2子においては支払った保育料の半額、第3子においては支払った保育料のほぼ全額が支給される。	○
施策の展開(5)：相談体制・情報提供の充実					
1. 子育てについて悩んでいる人が、気軽に身近なところで相談できる体制を	132	効果・効率的な相談機能体制	★子ども相談センター	関係機関が支援が必要なケースを把握した際は、子ども相談センターへ通告・相談として連絡が入っている。継続支援が必要なケースの場合は、関係機関内で、情報共有を行い、協議や相談の場を設け、各機関の役割分担を行い、支援を継続することができた。より専門性の高い援助が必要なケースについては、専門機関と連携を図り、助言を受けながら対応した。	○

目標及び施策の方向性	事業番号	後期計画事業	担当課	実施状況	担当課評価
2. 子育てに関する情報提供を充実させます。			★子育て支援課（地域子育て支援センター）	地域子育て支援センター・すてっぷ21などで、親子が安心して遊べ交流できる場を提供するとともに、保育士・栄養士・看護師などの専門職が子育ての悩みや不安を抱えてた親子に寄り添い、相談に応じてきた。また、電話相談にも応じている。相談内容や親子の状況によっては、他機関と連携をとりながら不安の軽減や支援に努めた。	○
	133	やちよ子育てハンドブック	★子育て支援課 母子保健課	子育て支援の情報提供として、民官協働で作成し5月に発行した。フルカラーで作成でき、乳児家庭全戸訪問事業や元気子ども課、子育て支援、総合案内所、情報公開室、支所、連絡所、公民館、図書館、保健センター、地域子育て支援センター、すてっぷ21、保育園、幼稚園を通じ就学前の乳幼児のいる全家庭に配布することができた。また子育てに関わる人にも配布することができた。	○
	134	ちこねっとニュース	★子育て支援課（地域子育て支援センター） 母子保健課	市内7圏域の地域子育て支援センター・すてっぷ21の事業活動や、地域の方との関わりや交流の様子をわかりやすく写真を掲載しながら作成。子育て支援の現状を知らせる内容として、子育てに関わる関係者や関係団体などに配布。地域子育て支援センターや出前「遊びと交流の広場」に掲示したり、各地域子育て支援センター・すてっぷ21において地域情報交換会などで活用した。	○
	135	子育て支援ネットワークホームページ（再掲） （事業番号33、170、194）	★元気子ども課 子育て支援課 母子保健課	平成22年3月下旬に開設した子育てに関するサイト「ここにこ☆元気」及び、子ども向けサイト「やちよキッズ」で、情報提供を行った。	○

具体的目標3：仕事と育児の両立支援

施策の展開（1）：信頼される保育園

1. 待機児童を解消します。	136	保育園の適切な定員配置	子育て支援課	ソレイユナーサリーゆりのき台・ベビーエンゼル八千代中央・八千代わかば保育園の新規開設により、施設定員を87名増員した。	○
2. 一人ひとりの子どもの気持ちに寄り添い、健やかな育ちを支援し、保護者と保育園の信頼関係を築きます。	137	保育園での子育て相談及び情報提供	子育て支援課（保育園）	・保護者や子育て支援センターの利用者が話しやすい雰囲気づくりを心掛け、保育士が経験を活かしながらアドバイスをし、子育てに関する施設、事業内容を提示しながら色々な機関と連携をもちながら、保護者の思いをくみ取りながら、悩みや不安を和らげる努力をした。 ・連絡帳やクラス懇談会、日常会話の中で、その年齢の発達の特徴を伝えるようにした。 ・園便り、クラス便り、保険便り、給食便り等で子育てに関する情報提供をおこなった。	○
	138	保育ガイドライン	子育て支援課（保育園）	新保育ガイドラインを基に、年間指導計画や月の活動計画、週の活動計画作成をし、月末または、年度末には反省会を持ち、次への参考とする事が出来た。	○
3. より利用しやすい保育園づくりをします。	139	時間外保育及び延長保育	子育て支援課	平成26年度は、認可保育園24園中22園（うち3園の認定こども園を含む）で、朝7時から夜7時までの12時間の開所、公立園2園で朝7時から夜8時までの13時間の開所を行った。	○
	140	一時預かり	子育て支援課	民間保育園7園及び民間幼稚園1園で一時預かりを実施した。	○
	141	休日保育	子育て支援課	実施園での利用状況から充足されていると考える。	○

施策の展開（2）：地域に根ざした学童保育所

1. 待機児童を解消します。	142	学童保育所の適切な定員配置	子育て支援課	関係各所との調整が図られず、定員拡大にはいたらなかった。	—
	143	ミニ学童クラブの把握	元気子ども課	平成26年度子ども・子育て支援事業計画策定に関してのニーズ調査の際に、ミニ学童について調査した。	○
2. 学童保育所を地域のコミュニティの拠点として活用します。	144	学童保育所の活用	子育て支援課	育児サークル等への開放を実施したため。	○
	145	学童保育所と地域の交流	子育て支援課	育児サークルに属する地域の保護者や、ボランティアサークル等との交流が図れた。	○
3. より利用しやすい学童保育所づくりをします。	146	学童保育ガイドライン	子育て支援課	八千代市学童保育ガイドラインに沿った事業運営を行った。	○

施策の展開（3）：多様な保育ニーズへの対応

1. 地域で子育てを支える仕組みの拡充を図ります。	147	ファミリー・サポート・センター（再掲） （事業番号120、191）	子育て支援課	市のホームページ「ここにこ☆げんき」や広報やちよでの記事の掲載・各地域子育て支援センター・すてっぷ21・保健センターでのポスター掲示やちらい配布。基礎研修会、会員相互の交流会、講習会等の実施。地域子育て支援センター・すてっぷ21での「おしえて！ふあみさほ」の実施。地域子育て支援ネットワーク事業地域情報交換会への参加。	○
	148	預かり保育の把握	元気子ども課	平成26年度子ども・子育て支援事業計画策定に関してのニーズ調査の際に預かり保育についても調査をした。	○
	149	ショートステイ事業の検討	★元気子ども課 子育て支援課	平成26年1月に実施したニーズ調査の結果等を踏まえ、ショートステイ事業の量の見込みについて検討し、平成27年10月から事業を開始する予定として、平成27年3月に策定した「八千代市子ども・子育て支援事業計画」に位置づけた。	○

目標及び施策の方向性	事業番号	後期計画事業	担当課	実施状況	担当課評価
	150	トワイライトステイ事業の検討	★元気子ども課 子育て支援課	平成26年1月に実施したニーズ調査の結果等を踏まえ、トワイライトステイ事業の量の見込みについて検討した。	○
2. 特別な保育事情に対応します。	151	病児・病後児保育の拡充	子育て支援課	診療所に併設された1施設で実施したが、診療所に付帯する施設を必要とするため、新規の施設建設計画と連動しなければならず、建設計画が確定していないため。	—
	152	保育園における慢性疾患児の受け入れ	子育て支援課	ぜんそくやアレルギーなどの持病を抱えた児童を安心して預けられるよう、公立保育園(8園)に看護師を配置。また、民間保育園16園のうち10園についても看護師を配置し、その児童の主治医とも密に連絡がとれる体制をとった。	○
施策の展開(4): 労働環境の整備と保護者の働き方の見直し					
1. 仕事と子育てが両立できるような環境整備を働きかけていきます。	153	ワーク・ライフ・バランスの意識啓発	★商工課	国、県等からの周知協力として、ホームページ上や商工課窓口にてチラシを掲示し、意識啓発を行った。	○
			★元気子ども課	平成22年3月に開設した、子育てに関するサイト「にこにこ☆元気」において、子育て中でも働きたい女性のための情報や父親の育休・子育て参加に関する情報を掲載し、ワーク・ライフ・バランスに関する啓発を行った。	○
			★男女共同参画課	ワーク・ライフ・バランスや男女の雇用均等に関する情報提供をし、男女が共に仕事や家庭、育児に生き生きと参画できるよう意識の啓発を行った。	○
	154	特定事業主行動計画	職員課	育児休業、子の看護休暇、育児参加休暇等の整備は進んでいるため。今後は制度の活用を促進するための情報提供等が必要になってくるものと思われる。	○
	155	一般事業主行動計画	★元気子ども課 商工課	市のホームページ及びパンフレット等により、一般事業主向けに周知を図った。	○
2. 就業希望者への支援体制を充実させていきます。	156	就業に関する情報提供	商工課	ハローワーク船橋の出先機関である地域職業相談室の運営協力を行った。就職面接会等の情報をホームページや市広報に掲載するなど情報提供に努めた。	○
施策の展開(5): 就学前の子どもに対する多様な支援					
1. 待機児童の解消と併せ、地域の子育て支援を行います。	157	認定こども園の設置を支援	子育て支援課	26年度については、新規開設はなかったが、27年度から移行についての相談を受けた。	—
具体的目標4: 特に支援を必要とする家庭への支援					
施策の展開(1): ひとり親家庭への支援					
1. ひとり親家庭に経済的支援を行います。	158	児童扶養手当	子育て支援課	児童扶養手当を支給することにより、ひとり親家庭の生活の安定と自立を助け、児童の福祉の増進を図ることができた。	○
	159	ひとり親家庭等医療費等助成	子育て支援課	利用者は増加していないが、利用者の希望にはほぼ応じることができた。	○
	160	母子家庭高校修学奨励金	子育て支援課	平成21年度末で事業廃止とした。	—
	161	生活福祉資金・母子寡婦福祉資金の貸付	子育て支援課	相談者に対して適切な対応ができた。	○
2. ひとり親が自立できるように支援します。	162	母子家庭自立支援教育訓練給付金	子育て支援課	相談者に対して適切な対応ができた。	○
	163	母子家庭高等職業訓練促進給付金	子育て支援課	受給者のうち、3人が卒業し、資格取得したことにより、増収が見込まれる。	○
	164	家庭教育の支援(再掲) (事業番号20、26、100)	★生涯学習振興課 公民館	平成26年度は、家庭教育講演会3回、家庭教育講座3回、家庭教育学級9公民館16学級、幼児親子学級9公民館11学級を開催するなど、家庭教育に関する学習の機会を設けた。	○
	165	母子自立支援員による相談 (事業番号169)	子育て支援課	相談者に対し、適切な対応ができた。	○
	166	ひとり親家庭の交流の場づくり	子育て支援課	平成25年度に実施したアンケート調査に基づき、ひとり親の交流会を実施。18名の申込みがあり、当日は10名が参加し、情報交換や交流をすることができた。	○
3. ひとり親が働きやすい環境をつくりまします。	167	ひとり親家庭等日常生活支援	子育て支援課	利用希望にほぼ応じることができた。	○
	168	保育園、学童保育所の入園、入所の審査	子育て支援課	保育園、学童保育所の入所の審査については、保護者の状態に応じた指数にひとり親家庭の場合は、調整基準として加算している。	○
4. ひとり親家庭の自立に必要な情報の提供や相談しやすい体制をつくりまします。	169	母子自立支援員による相談(再掲) (事業番号165)	子育て支援課	相談者に対し、適切な対応ができた。	○
	170	子育て支援ネットワークホームページ(再掲) (事業番号33、135、194)	★元気子ども課 子育て支援課 母子保健課	平成22年3月下旬に開設した子育てに関するサイト「にこにこ☆元気」及び、子ども向けサイト「やちよキッズ」で、情報提供を行った。	○

目標及び施策の方向性	事業番号	後期計画事業	担当課	実施状況	担当課評価
施策の展開 (2) : 障害のある子どもを育てる家庭への支援					
1. 障害のある児童の早期発見・早期療育及び相談機能の充実に努めます。	171	幼児健康診査時における障害の早期発見	母子保健課	医師により精密健康診査が必要と判断された場合、一次医療機関で精密健康診査を進めるほか、未受診者には、受診勧奨券を送付している。相談機関紹介者へは、保健師が電話等で紹介者の状況を把握するとともに、継続支援している。	○
	172	児童発達支援センター（ことばと発達の相談室を含む）の充実	児童発達支援センター（ことばと発達の相談室）	公共施設等総合管理計画を踏まえて、今後公共施設再配置等推進委員会で検討を進めていく。	—
	173	就学相談	★指導課 障害者支援課 児童発達支援センター	児童発達支援センター、ことばと発達の相談室等との連携を緊密に図り、就学相談を行ってきた。就学の際に保護者の希望を確認しながら、配慮事項等の申し送りがなされるようになってきた。幼稚園や保育園にも就学相談に関する周知が図られてきた。小学校への申し送りも園・学校と調整を図りながら丁寧に行われている。就学後に特性に気付くケースもあり、就学時健康診断にて、発達障害等や相談先に関する情報提供を行うようにしている。	○
2. 障害のある児童を育てている家庭への経済的支援を行います。	174	特別児童扶養手当	障害者支援課	249人の父母又は養育者に対し、特別児童扶養手当を支給した。	○
	175	障害児福祉手当	障害者支援課	93人の重度の心身障害児に対し、障害児福祉手当を支給した。	○
	176	心身障害児福祉手当	障害者支援課	443人の心身障害児に対し、心身障害児福祉手当を支給した。	○
3. 障害のある児童を育てている家族の負担の軽減を図ります。	177	レスパイトサービス	★障害者支援課	地域生活支援事業の日中一時支援事業を実施しており、必要に応じて利用できるよう支援している。	○
			★児童発達支援センター	療育時間外の9時～10時、14時30分～16時30分の中で保護者たちが有効に時間を活用することができたため。（友だちや自分の姉妹、母親との時間を過ごすことに活用したり兄弟の幼稚園や学校行事に活用した）	○
	178	保護者同士の交流や学習の支援	★障害者支援課	八千代市手をつなぐ親の会ジュニア部との意見交換会を実施しました。また、八千代・船橋特別支援学校において、PTA会への参加を行い障害福祉サービスの案内や意見交換などを行いました。	○
			★児童発達支援センター	保護者同士の親睦や情報交換が図れるように母子通園日を設定したり卒園児や手をつなぐ親の会との交流を計画したり、また子どもへのかかわり方などの学習会を計画し積極的に取り組むことができたため。	○
	179	障害福祉サービス	障害者支援課	障害者総合福祉法・児童福祉法に基づくサービス案内を行い、利用の決定をすることで支援の充実に努めた。	○
180	補装具、日常生活用具等購入費	障害者支援課	障害者総合福祉法により補装具や日常生活用具の支給に努めました。また、18歳未満の障害児の保護者に対して、補装具費自己負担の半額を市の単独事業により行った。	○	
施策の展開 (3) : 外国籍の親家庭への支援					
1. 外国籍の親家庭に必要な情報を提供していきます。	181	外国籍の親や家族に対して子育てに必要な情報を提供	国際推進室	多文化交流センターに通訳を配置し、各種相談業務を行う中で出産・育児に関する情報を提供することができた。また、日本語を母国語としない外国籍親子のために日本の学校について説明する「親と子の学校ガイダンス」を開催した。	○
			★母子保健課	妊娠届出書および幼児健康診査受診票について、需要の多い英語・ポルトガル語・スペイン語・タガログ語の用紙を作成している。また、予防接種受診票は、英語・ポルトガル語・スペイン語を作成している。	○
			★元気子ども課	八千代市のホームページにおいて、5か国語で閲覧できるが、申請書類等については外国語に対応されていないため、窓口で丁寧に対応している。	○
2. 外国籍の親家庭が孤立しないように支援します。	183	同国出身者の名簿の作成を検討	国際推進室	個人情報の保護が厳しくなっている昨今、名簿を作成することはふさわしい対応策とは考えにくい。そのため、名簿作成以外で、孤立させないための施策を検討していく必要があると思われる。	—
			184	子育ての仲間を形成する仕組みを検討	国際推進室
施策の展開 (4) : 児童虐待とDV家庭への支援					
1. 虐待を早期発見し、再発防止のための支援をします。	185	八千代市要保護児童対策地域協議会	★子ども相談センター 母子保健課 指導課	八千代市要保護児童対策地域協議会代表者会議1回、実務者会議3回、進行管理連絡部会11回、個別支援会議51回を開催。要保護児童対策の現状と各機関の役割について共通理解をしたり、事例を通じ、関係機関が要保護児童の支援方針を協議することができた。	○

目標及び施策の方向性	事業番号	後期計画事業	担当課	実施状況	担当課評価
2. 児童虐待とDV家庭への相談体制を充実します。 3. 緊急保護体制を整えます。	186	養育支援事業（早期発見と対応）（再掲） （事業番号126）	★母子保健課 子育て支援課（地域子育て支援センター） 子ども相談センター	妊娠期・乳幼児期の事業で全数把握事業を通して養育支援が必要な家庭の発見を行っている。 母子保健課内の支援基準を設け、母子保健事業の案内時期や事業の未参加・未受診時に電話や訪問で対応することや、必要な人へは事業の参加・受診にかかわらず支援を行う体制を取っている。家庭の状況に応じ虐待・要支援家庭・特定妊婦・所在確認が出来ない児童の場合は、子ども相談センターへ報告し、要保護児童地域対策協議会のケースとして対応している。	○
	187	子ども相談センター（再掲） （事業番号73）	子ども相談センター	関係機関と連携しながら、問題解決のための資源情報を提供したり、当事者が問題解決できるように継続的な支援を行った。	○
	188	DV家庭への相談体制及び支援	★子育て支援課 ★男女共同参画センター	ケースワーカーの資格を有する職員と、母子・父子自立支援員が相談に応じており、必要に応じて関係機関を紹介している。 「女性、こころの悩み相談」にDVに関する相談があった場合に子育て支援課と連携を図ることができたため。	○
	189	緊急の避難	子育て支援課	必要に応じて連絡調整を行った。	○

基本目標3：子どもの育ちと子育てを地域全体で支える

具体的目標1：子どもと子育てを家庭を支える「地域力」をつくる

施策の展開（1）：親子が地域へつながるご近所づくりへの支援

1. ひとりぼっちの子育てをなくしていくために、地域で子どもたちと子育て家庭を支えるご近所づくりを促進します。	190	自治会活動の推進	生活安全課	自治会加入率が近隣市に比べると低い。 【参考】 八千代市自治会加入率：60.8% 近隣7市平均自治会加入率：65.9%（平成26年4月1日現在）	—
	191	ファミリー・サポート・センター（再掲） （事業番号120、147）	子育て支援課	市のホームページ「にこにこ☆げんき」や広報やちよでの記事の掲載・各地域子育て支援センター・すてっぷ21・保健センターでのポスター掲示やちらい配布。基礎研修会、会員相互の交流会、講習会等の実施。地域子育て支援センター・すてっぷ21での「おしえて！ふあみさば」の実施。地域子育て支援ネットワーク事業地域情報交換会への参加。	○
	192	地域子育て支援ネットワーク事業（再掲） （事業番号123、195、215）	★子育て支援課（地域子育て支援センター） 母子保健課 子ども相談センター	母子健康手帳交付や全数対象事業（4か月児赤ちゃん広場・10か月児赤ちゃん広場・もうすぐ1歳半おやこ広場）など妊娠から出産、乳幼児期までの切れ目のない支援を実施。他機関との連携を図りながら支援の必要な親子への支援を行っている。また、市民や各子育て支援関係団体と地域情報交換会を開催し、安心して子育てができる地域づくりについての情報交換を行った。	○
	193	八千代子育て応援メッセージ	元気子ども課	市のホームページ「にこにこ☆元気」及び子育てハンドブック等に子育て応援メッセージを掲げ、周知した。	○
	194	子育て支援ネットワークホームページ（再掲） （事業番号33、135、170）	★元気子ども課 子育て支援課 母子保健課	平成22年3月下旬に開設した子育てに関するサイト「にこにこ☆元気」及び、子ども向けサイト「やちよキッズ」で、情報提供を行った。	○

施策の展開（2）：行政と市民の協働とネットワーク化の推進

1. 市民と行政が協働し、ともに支えあいながら子どもや子育て家庭を支えていく仕組みをすすめていきます。	195	地域子育て支援ネットワーク事業（再掲） （事業番号123、192、215）	★子育て支援課（地域子育て支援センター） 母子保健課 子ども相談センター	母子健康手帳交付や全数対象事業（4か月児赤ちゃん広場・10か月児赤ちゃん広場・もうすぐ1歳半おやこ広場）など妊娠から出産、乳幼児期までの切れ目のない支援を実施。他機関との連携を図りながら支援の必要な親子への支援を行っている。また、市民や各子育て支援関係団体と地域情報交換会を開催し、安心して子育てができる地域づくりについての情報交換を行った。	○
	196	子ども人権ネットワーク会議（再掲） （事業番号59、76、122）	元気子ども課	年4回会議を開催し、関係団体や関係機関と連携を図りながら、子どもの権利に関する条例についての検討や、自己肯定感や意識の差、安心して生きる権利、子どもの育つ権利が侵害されている実態、子どもの居場所の大切さ、子どもの参加について意見交換を行った。	○
	197	地区青少年健全育成連絡協議会への支援	青少年課	補助・支援により地区活動が活発に行われ、青少年の健全育成に寄与した。	○
	198	生涯学習ボランティアバンク	生涯学習振興課	講師登録は平成26年度末現在で42人おり、この1年間で3人増えた。しかしながら、利用件数は2件だった。	—

施策の展開（3）：子ども・子育て支援のための人材の育成

1. 地域の子育て支援や子どもの育成に関する活動を充実させるために、子育て事業に係る人材の育成	199	八千代市幼児教育振興プログラム（再掲） （事業番号34）	★元気子ども課 子育て支援課（保育園） 指導課 母子保健課	八千代市幼児教育振興プログラム及び同アクションプログラムについては、計画の最終年度にあたり、4年間の評価を行い、今後の課題等検証した。	○
	200	子育て支援に係る人材の育成と交流	元気子ども課	子ども支援者養成講座等の講座及び研修を開催していない。	—

目標及び施策の方向性	事業番号	後期計画事業	担当課	実施状況	担当課評価
1. 子育てや子どもの育成支援にシニア世代の積極的な参加を推進します。	201	ボランティアの養成、研修	(社会福祉協議会)	年間を通じてボランティア活動(保育、学習、送迎、介助、生きがい活動、施設での活動等)の推進を図った。また、必要に応じてボランティア講座(初級、中級ボランティア講座、絵本作家講座、女性セミナー等)を開催し、若い世代の育成にも取り組んだ。学校等においては、小中高校生を対象に福祉教育(車イス及びアイマスク体験、福祉講話等)を実施した。	○
	202	市の職員研修における次世代育成支援	職員課	新規採用職員研修Ⅰの「地方公務員とは(服務)」で、地方公務員としての認識を深め、職務遂行に必要な基礎的知識を身につけることを目的として八千代市職員の子育てと仕事の両立について講義を行った。新規採用職員研修Ⅱで、職務上必要な実務的知識を習得することを目的として、「男女共同参画に関する取組」についての講義を行い、次世代育成支援に関して理解を深め、また、「子どもの総合相談と児童虐待相談」の講義を行い、子育てについての理解を深めた。 千葉県自治研修センターの「主任保育士研修」で、次世代育成や児童虐待など保育所に求められる役割の重要性が増すなかで、適正な保育所の管理運営について学ぶため、主任クラスの保育士を派遣し、事業目的を達成した。	○
	203	八千代子ども親善大使	指導課	親善大使として選ばれた10名の子どもたちは、事前研修に積極的に参加し、バンコクの人々との交流活動に主体的に取り組んでいた。現地でも積極的に交流する姿が見られた。	○
	204	青少年団体指導者養成講座(再掲) (事業番号87、213)	青少年課	青少年団体の指導者としての基礎的な知識や技術を身につけるための青少年団体指導者養成講座「友・遊・カレッジ」全5回を開催し、指導者の養成を図った。	○
2. 青少年の健全育成のために人材を育成します。					
施策の展開(4): シニア世代の参画の推進					
1. 子育てや子どもの育成支援にシニア世代の積極的な参加を推進します。	205	地域ぐるみの子ども見守り活動 (事業番号222)	保健体育課	市立小学校各校に1名のスクールガードリーダーの配置を目標にしているが、平成26年度の配置は21名であった。なお、1名のスクールガードリーダーが複数校をみていただいている。今後も地域の方の協力を得て、22名の配置をめざし、学校と地域の連携を進めていきたい。	—
	206	シニア世代との交流	★子育て支援課(保育園)	計画通りに長寿会ふれあい教室(昔遊び)を実施した。	○
			学校(★指導課)	特別養護老人ホームでの高齢者との交流、学校行事で高齢者にご参加いただくことによる交流等、小中学校では様々な機会を設けている。自然な形でふれあう機会を多く設けることも必要である。	—
			★文化伝承館	会員の中心がシニア世代あるボランティア団体(ゆいの会・本だすきの会)や伝統文化団体(八千代市茶道連盟・八千代市三曲協会)などの協力によって、八千代の伝承文化を習おう(昔遊び編・物づくり編・紙芝居と昔話の会)、伝統文化を習おう(子ども茶道入門・子ども邦楽教室・子ども日舞入門)などの事業を実施した。	○
	★元氣子ども課	放課後子ども教室において、シニア世代との交流が行われたり、保育園・幼稚園等においても長寿会などの協力を得て、昔遊びなどを通して、積極的にシニア世代との交流が行われた。	○		
207	ふれあい教室(再掲) (事業番号96)	生涯学習振興課	148件の開催希望に対して、開催できなかったものは18件でした。これは、特定の日に開催希望が集中した後の調整で、ボランティア側と希望側のスケジュールが合わなかったことが主な事由です。こうした例外を除いて、概ね目的に沿って事業が実施できたと考えています。	○	
2. シニア世代の子育て応援者を育成します。	208	シニア世代の子育て応援者の養成	元氣子ども課	本年度は、シニア世代の子育て応援者を養成するような取り組みを実施していない。	—
施策の展開(5): 若者世代の参画の促進					
1. 子育てや子どもの育成支援に若者世代の積極的な参加を推進します。	209	おにいさん・おねえさん子ども電話相談(再掲) (事業番号72)	子ども相談センター	子ども自身から直接、学校生活に関すること、成長発達に関すること、家庭に関すること等の相談が寄せられ、子どもの意思表示の場になっている。また相談を受ける大学生の立場からは、相談されることが経験できる場となっている。	○
	210	フリーバレット(再掲) (事業番号85)	子育て支援課	水曜日、木曜日、土曜日で開所。小中高生が学校・学年や性別に関係なく自由に利用し、おしゃべりをしたり遊んだり、好きなことをしながらお互い交流して過ごせるようにした。	○
	211	新川わくわくプレーパーク(再掲) (事業番号84、88)	元氣子ども課	年間124日開催し、子ども1,744人、大人1,025人、合計2,769人の利用があった。	○
2. 子育て・子育て応援者としての若者世代の育成をします。	212	若者世代のボランティア等を養成	★元氣子ども課	東京成徳大学と連携を図り、新川わくわくプレーパーク及び放課後子ども教室において、大学の授業の一環としてボランティアの参加の場を提供し、ボランティアの養成を図った。	○
			★子育て支援課	東京成徳大学との協働で応用心理学科1年生と臨床心理3年生が地域ボランティア演習の授業でフリーバレットのボランティアとして活動した。	○
	213	青少年団体指導者養成講座(再掲) (事業番号87、204)	青少年課	青少年団体の指導者としての基礎的な知識や技術を身につけるための青少年団体指導者養成講座「友・遊・カレッジ」全5回を開催し、指導者の養成を図った。	○
具体的目標2: 子どもと家庭の生活圏の再編成					

目標及び施策の方向性	事業番号	後期計画事業	担当課	実施状況	担当課評価	
施策の展開(1): 生活圏単位での施策整備						
1. 子育て家庭や子どもたちの生活圏に応じた地域づくりと人的ネットワークを検討していきます	214	市の総合計画に基づく事業の推進	元氣子ども課	第4次総合計画との整合性を図りながら、子ども・子育て支援事業計画を策定した。	○	
	215	地域子育て支援ネットワーク事業(再掲) (事業番号123、192、195)	★子育て支援課(地域子育て支援センター) 母子保健課 子ども相談センター	母子健康手帳交付や全数対象事業(4か月児赤ちゃん広場・10か月児赤ちゃん広場・もうすぐ1歳半おやこ広場)など妊娠から出産、乳幼児期までの切れ目のない支援を実施。他機関との連携を図りながら支援の必要な親子への支援を行っている。また、市民や各子育て支援関係団体と地域情報交換会を開催し、安心して子育てができる地域づくりについての情報交換を行った。	○	
具体的目標3: 子どもが豊かに育つための環境づくり						
施策の展開(1): 子どもにやさしい社会環境の整備						
1. 子どもや子育て家庭が安全で快適に生活できるハード面の社会環境の整備に努めます。	216	道路の整備	土木建設課	新川周辺地区都市再生整備計画における勝田台地区の路側帯のカラー化、平成25年度に引き続き八千代台西小学校の通学路の一部(市道八千代台西52号線)の路側帯のカラー化、その他通学路の安全対策や歩道端部の切下げ等を実施した。 ※勝田台183号線外5路線歩行支援施設整備工事、八千代台西52号線歩行支援施設整備工事、歩行支援施設整備(路側帯カラー舗装)工事、歩行支援施設整備(歩道切下げ)工事、歩行支援施設整備(高津団地2号線)工事、歩行支援施設整備(米本地区)工事、歩行支援施設整備(歩道改修)工事	○	
	217	駅のバリアフリー化及びバス路線等整備充実の要請	★都市計画課	京成八千代台駅及び勝田台駅については、平成22年度にエレベータを設置し、一部バリアフリー化を図った。 現在は、京成大和田駅のバリアフリー化について平成28年度～平成29年度の2カ年で京成電鉄において実施予定となっており、協議中である。 (※都市計画では、東葉高速鉄道関連の事業は対象外)	—	
			★総合企画課	東葉高速線村上駅へのエレベーター設置工事が年度内に完了し、平成27年3月31日より供用開始となったことにより、駅利用者の移動の円滑化が図れた。市は事業者である東葉高速鉄道(株)に対し補助を行った。	○	
	218	子育て家庭の住環境の整備(市営住宅等)	建築指導課	市営住宅等の入居者募集を3回実施し、計10戸募集したが、子育て家庭の申込みが1件もなかったため。	—	
	219	おもむつ交換台・授乳コーナー等の設置及び啓発	★元氣子ども課	平成26年度、公共施設においておもむつ交換台等の設置についての検討等はしていないが、元氣子ども課の窓口にお越しの乳児を抱えた方には、設置場所への案内等周知、啓発を行った。 また、おもむつ交換台・授乳コーナー等の設置・授乳スペースの確保として「赤ちゃんの駅事業」の実施に向けて検討を行った。	○	
			★各施設管理課	農政課では、農業交流センターとふるさとステーションを管理しており、農業交流センター、ふるさとステーションとも、おもむつ交換台は設置しておりますが、授乳コーナーは設置されていません。	—	
	220	子どもが自由に安心して遊べるスペースづくりの啓発	元氣子ども課	市民・NPO・行政との協働で子どもたちが安心して遊べるプレーパークを開催している案内チラシを元氣子ども課の窓口で配布した。また放課後子ども教室実施校では保護者向けに事業の周知チラシを配布した。	○	
	2. 子どもや子育て家庭が安全で快適に生活できるソフト面の社会環境の整備に努めます。	221	子ども110番の家の推進	青少年課	プレートの提示や在庫状況について調査を行い、取り換えや新規掲示に対応した。	○
		222	地域ぐるみの子ども見守り活動(再掲) (事業番号205)	保健体育課	市立小学校各校に1名のスクールガードリーダーの配置を目標にしているが、平成26年度の配置は21名であった。なお、1名のスクールガードリーダーが複数校をみていただいている。今後も地域の方の協力を得て、22名の配置をめざし、学校と地域の連携を進めていきたい。	—
		223	市民防犯パトロール	生活安全課	自治会等の自主防犯パトロール隊に対する物資の貸し出し、防犯組合連合会に対する補助金交付等を通じて、市民による防犯パトロールの実施を支援した。	○
224		交通安全教育啓発事業	生活安全課	平成26年度は、市内の保育園、幼稚園、小学校、中学校、高齢者等を対象に193回実施し、19,792人が参加したため。	○	
225		保育室設置の啓発	元氣子ども課	市民説明会、子ども・子育て会議開催時に保育室を設置し、啓発の一助とした。	○	
226		有害情報の対策	★青少年課 青少年センター 元氣子ども課	市内各駅頭で薬物乱用防止の啓発物資を下校中の児童・生徒に配布し周知を図った。	○	
227		やちよ防犯情報メール	生活安全課	やちよ防犯情報メールの配信を希望する市民の携帯電話やパソコンに不審者情報や犯罪発生情報を配信した。班発発生情報35件、不審者情報34件、防犯啓発情報41件。	○	
施策の展開(2): 子どもにやさしい自然環境の整備						
1. 環境汚染を未然に防止できる施策を市民と協働して	228	公害防止のための調査活動	環境保全課	一般環境での定期調査及び事業場の立入調査を実施し、基準を超過した事業場に対して改善指導を行った。 また、調査結果を「八千代市の環境」(環境白書)に掲載し、市民へ広報した。	○	

目標及び施策の方向性		事業番号	後期計画事業	担当課	実施状況	担当課評価
	推進します。	229	公害防止のための啓発活動	環境保全課	「八千代市の環境」（環境白書）を作成し、事業者及び市民に向けての環境汚染の現状と、これからの対策についての啓発を行った。また、浄化槽の適正管理をホームページ等で周知するとともに、公害苦情を適切に処理した。	○
		230	環境学習（再掲） （事業番号40）	学校（★指導課）	子どもサミット活動の一環として、美化活動の推進やエコキャップ活動、地域防災・減災に関わる活動に取り組み、環境について興味・関心を高めながら学習を行ってきた。また、理科・生活科・社会科・家庭科等の教科をとおした環境学習により、環境保全に対する意識は深まり、広まりつつある。しかし、まだ活動・学習の余地・可能性があると捉えている。	—
				★環境保全課	「子ども環境教室（巣箱づくり）」、「野鳥展」をはじめとした環境学習会を開催した。また、ふれあい大学での環境学習を実施した。	○
		231	不法投棄の対策	クリーン推進課	啓発については、駅前啓発、啓発グッズの配布、新川の啓発パトロール、横断幕・懸垂幕の掲示、不法投棄防止看板の設置、ポイ捨て防止ポスターの募集等を実施してきた。 また、パトロールについては、職員による時期ごとの夜間パトロールを行ってきた。しかし、通報システムの確立については、インフラ整備に費用がかかることなどから、実施にはいたらなかった。	—
2. 子どもたちが八千代の豊かな自然と触れ合いながら暮らしていけるような環境づくりをすすめていきます。	232	谷津・里山・ほたるの里の保全	環境保全課	ほたるの里においては、観察会や水辺の環境学習の場として活用できた。 谷津・里山保全においては、谷津・里山保全計画を22年度に策定した。26年度は、4回目の里山楽校を開催した。また、里山シンポジウムを10月に開催した。	○	